



鬼女台のヒナギク（岡山県真庭市）

撮影 徳田名誉院長

私たち津山慈風会は、地域の皆さんにやさしく寄り添います

Topics

Topics1

心リハ心不全チームについて

Topics2

新任医師ご紹介

『心リハ・心不全ケアチームについて』



津山中央病院 循環器内科 医長
ふじもと りょうへい

藤本 竜平

専門医・指導医

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会認定循環器専門医
- ・日本救急医学会認定救急科専門医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・日本救急医学会認定ICLSコースディレクター
- ・JMECC/ICLSインストラクター
- ・美作MC協議会検証医師
- ・心臓リハビリテーション指導士

†活動の背景

近年、「脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が公布されましたが、社会連携に基づく循環器病対策は不十分です。救急搬送患者の多くが循環器系疾患に起因し、津山英田保健医療圏でも特に顕著です。当医療圏では高齢化率が34.3%と高く、2022年度の心不全入院患者の平均年齢は80.9歳であり増加傾向ですが、循環器専門医数は限られており、地域特有の多職種包括的ケアの確立は急務です。当院では、2023年度から多職種からなる心不全療養指導士を中心とした心臓リハビリテーション（心リハ）・心不全ケアチーム（Tsuyama Heart Failure Support Team: T-HST）を発足しました。

†心不全とは

心不全とは『心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気』と定義されています（急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン）。原因は虚血性心疾患、弁膜症、心筋症、心房細動をはじめとする不整脈など様々です。このような医学的背景に対する治療は重要ですが、社会背景や家庭背景は大きく予後に影響し、その部分を調整しないと再入院率は50%も上昇します。心不全ケアは医師のみの働きでは充足されません。

†多職種介入の重要性とエビデンス

心不全患者に対する疾病管理プログラムには多職種(医師・看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士など)により運営され、専門知識をもつ心不全療養指導士などが複数含まれることが望ましく、患者転帰に良い影響を与え、全死亡および心不全再入院を抑制します（心不全基本薬と同等の効果）。理学

療法士による心リハは心血管死亡リスクを減少させ、患者のセルフケアを指導する看護師の介入により全死亡を低減させます。栄養療法では、低栄養の高リスク群ほど恩恵を受けるとされます。さらに、薬剤師主導での心不全治療薬の推奨が、左室駆出率の低下した心不全（HFrEF）のkey drugであるβ遮断薬の処方増加と関連していました（図1）。心不全療養指導において多職種介入は不可避と考えます。

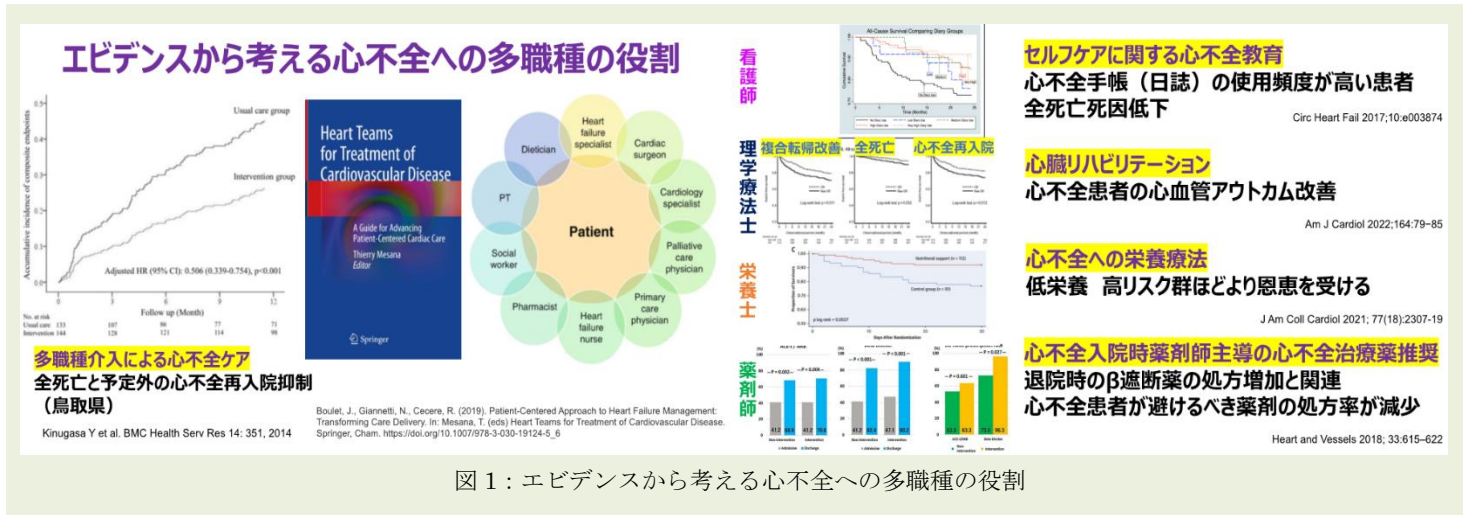


図1：エビデンスから考える心不全への多職種の役割

†津山中央病院 心リハ・心不全ケアチームについて（図2）

当院心リハ・心不全ケアチームは循環器医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、ソーシャルワーカーによって構成され、下記の達成を目標とします。

1. 短期間に入退院を繰り返す心不全患者の再入院予防（特にStage C,D）
2. 入院から退院時までの包括的支援（生活、栄養、服薬）
3. 安全で有効な運動指導（心臓リハビリテーション）
4. 心不全に関連する院内外研修の定期開催
5. 心不全緩和ケアの提供

活動例として週1回のカンファレンス（司会は理学療法士）や回診、患者QOL評価にIPOS（integrated Palliative care Outcome Scale）を導入し、院内の心不全クリニカルパスを改訂しています。IPOSは患者報告型アウトカムと言われ、緩和ケアを要する非がん患者にも使用されます。17項目の質問を5段階(0-4)で行い、点数が高いほど自覚症状・心理的・社会的問題が多くなります。

津山中央病院 心リハ・心不全ケアチーム
Tsuyama Heart failure Support Team (T-HST)

1. 短期間に入退院を繰り返す心不全患者の再入院予防（特にStage C,D）
2. 入院から退院時までの包括的支援（生活、栄養、服薬）
3. 安全で有効な運動指導（心臓リハビリテーション）
4. 心不全に関連する院内外研修の定期開催
5. 心不全緩和ケアの提供

活動内容

心不全カンファレンス、回診：週1回（水曜日）
院内勉強会、緩和ケアチームとの相互連携
心不全パス改訂・心不全連携シート作成と地域連携
他病棟患者の相談
保健所を含む行政との連携

情報共有 患者ラウンド

図2：津山中央病院 心リハ・心不全ケアチーム

新任医師のご紹介



●津山中央病院



内科

里見 拓也

専門 消化器内科



内科

武田 和宏

専門 消化器内科



内科

松原 弘樹

専門 内科一般



内科

森本 光作

専門 消化器内科



内科

森本 志帆

専門 腎臓内科



内科

大澤 恵一

専門 内科一般



内科

大内 智貴

専門 内科一般



循環器内科

大丸 隼人

専門 循環器内科一般



循環器内科

野畑 寛志

専門 循環器内科一般



循環器内科

杉生 有広

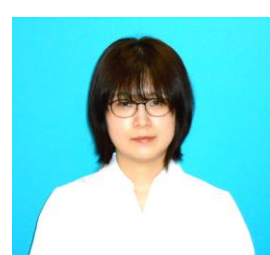
専門 循環器内科一般



循環器内科

兒玉 悠暉

専門 循環器内科一般



外科

三又 明日香

専門 乳腺外科



小児科

黒澤 健悟

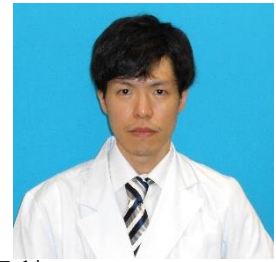
専門 小児科一般



小児科

深澤 達也

専門 小児科一般



小児科

前島 敦

専門 小児血液腫瘍



小児科

岸本 悠暉

専門 小児科一般



整形外科

小原 利輝

専門 整形外科一般



整形外科

梶原 遼太郎

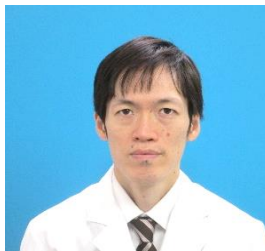
専門 整形外科一般



整形外科

立花 和典

専門 整形外科一般



産婦人科 部長

坂手 慎太郎

専門 産婦人科一般



産婦人科

杉原 百芳

専門 産婦人科一般



泌尿器科

白神 壮洋

専門 泌尿器科一般



皮膚科

藤田 周作

専門 皮膚科一般



放射線科

川端 隆寛

専門 放射線診断



麻酔科

山下 航矢

専門 麻酔科一般



歯科・口腔外科

竜門 省二

専門 口腔外科



救急・集中治療科

山本 隼究

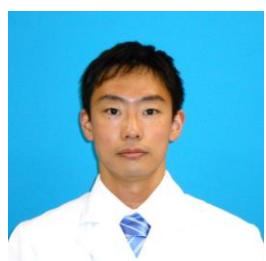
専門 救急科一般



救急・集中治療科

青景 珠実

専門 総合診療



救急・集中治療科

久次 康樹

専門 救急科一般



研修医科

石部 健太



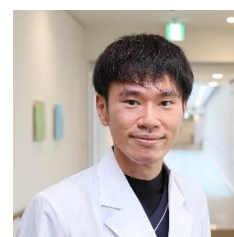
研修医科

梅田 朔



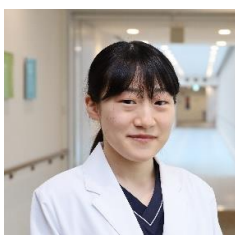
研修医科

北村 優都



研修医科

五藤 岳



研修医科

平山 真妃



研修医科

森末 千尋



研修医科

森本 尚基

●津山中央記念病院



内科 副院長

高城 康師

専門 内科一般



内科

井田 潤

専門 循環器疾患

●退任医師（津山中央病院）

内科 神崎 洋光 かんざき医院へ	内科 杉山 智美 川崎医科大学附属病院へ	内科 片山 隼人 福岡徳洲会病院へ	内科 吉川 智輝 岡山大学病院へ	内科 小川 泰司 岡山済生会総合病院へ
内科 筒井 智章	内科 小畠 将司 金田病院へ	外科 遠藤 福力 津山第一病院へ	外科 大島 圭一朗 岡山大学病院へ	外科 中本 翔伍 岡山大学病院へ
循環器内科 今村 繭子 岩国医療センターへ	整形外科 出宮 光二 岡山市立市民病院へ	整形外科 安倉 直樹 岡山大学病院へ	整形外科 國富 康資 神戸赤十字病院へ	脳神経外科 泉原 康平 岡山大学病院へ
脳神経外科 泉原 真光 岡山大学病院へ	小児科 坂田 晋二 鳥取県立総合療育センターへ	小児科 堀江 航 鳥取大学医学部附属病院へ	小児科 成行 健汰 日本原病院へ	皮膚科 水田 康生 岡山大学病院へ
放射線科 岡本 聡一郎 岡山大学病院へ	麻酔科 仲原 隆弘 岡村一心堂病院へ	麻酔科 大本 智子 非常勤へ	救急・集中治療科 滝口 隆章 さとう記念病院へ	救急集中治療科 山内 優那 岡山大学病院へ
歯科 竜門 幸司 非常勤へ	研修医科 横溝 加奈子 亀田総合病院へ	研修医科 若山 太一 公立豊岡病院へ	研修医科 只野 正幸 成羽病院へ	研修医科 鱒淵 明 東京都立小児総合医療センターへ
研修医科 濱口 侑永 岡山大学病院へ	研修医科 山本 彩加 鳥取大学医学部附属病院へ			

セミナー・講演会情報

●CCセミナー（Web併用のハイブリッド形式）

講演 『 婦人科良性疾患の低侵襲手術について 』

- ・講師 産婦人科 部長 坂手 慎太郎 先生
- ・日時 2024年5月14日（火）19：00～20：00
- ・場所 津山中央病院 研修センター2F講義室

●第53回岡山県北ACP・緩和医療研究会（CCセミナー）

（Web併用のハイブリッド形式）※[日本医師会生涯教育講座申請中（1.0単位：終末期のケア）](#)

講演 『 緩和ケアと地域連携 』

- ・講師 国民健康保険智頭病院 院長 足立 誠司 先生
- ・日時 2024年5月24日（金）19：00～20：00
- ・場所 津山中央病院 健康管理センター3F 慈風会記念ホール